

八軒家の活性化に関する提言書

平成27年7月3日

八軒家プロジェクト

— 目次 —

目次	・ ・ ・ ・ ・ 2
はじめに(提言書とりまとめに至る経緯)	・ ・ ・ ・ ・ 3
八軒家浜の歴史的的重要性について	・ ・ ・ ・ ・ 4
提言 1	・ ・ ・ ・ ・ 6
提言 2	・ ・ ・ ・ ・ 6
「八軒家活性化」に向けた取組み案	・ ・ ・ ・ ・ 7
八軒家プロジェクトの活動履歴	・ ・ ・ ・ ・ 9
プロジェクトメンバー	・ ・ ・ ・ ・ 14
参考資料	・ ・ ・ ・ ・ 15
・ リバーフェスティバルリーフレット	
・ 八軒家リーフレット	
・ 「熊野が結ぶ」イベントリーフレット	

はじめに（提言書とりまとめに至る経緯）

2008年京阪電気鉄道中之島線の建設に合わせ、八軒家浜（大阪市中央区北浜東）の再整備が行われ、2010年に半地下駐車場と上部広場（八軒家ガーデン）が完成した。

この八軒家浜再整備計画においては、地元である北浜東振興町会が2004年ワークショッププラン、2005年ワークショッププランを大阪府に提出するなど積極的にアイデアや要望を出し、大阪府西大阪治水事務所や大阪府都市整備部河川室と対話を重ね、協力して地元住民や府民に親しまれ活用される空間を実現することができた。

また完成の際には、この地が古い歴史を持つ水陸交通の要所であることをよく知る地元町会からそのことを記した「渡辺津の記念碑」が寄贈され、これによって忘れかけられていたこの地の歴史的な価値を掘り起し公に知らしめることができた。

その後有志の会「八軒家プロジェクト」は

1. 八軒家の真の歴史を広く知ってもらう
 2. 八軒家を拠点とし、京都から熊野という広域を繋ぎ大阪の魅力創出に生かす
- という2点を大きな目標として活動してきた。

この活動の経験を踏まえ、八軒家浜を活性化させ大阪の魅力創出の拠点として成長させる一助となるようこの提言を取りまとめた。

八軒家浜の歴史的重要性について

文：大阪歴史博物館学芸員 大澤研一

天満橋の南西岸にある八軒家浜は淀川の支流である大川が上町台地の北端に当たって流れを南向きから西向きに大きく変える地点に立地している。ここはまた東からかつては大和川、現在では寝屋川が合流する地点でもあり、古来より交通の要地としての条件を備えた場所であった。

八軒家浜はそうした立地を背景に、時代ごとに特性を見せつつ、さらにそれらが積み重なって長い歴史を作り出し、しかもその歴史を活かした町づくりが現在進められつつある点で大阪のなかでも注目される場所といえよう。

八軒家浜そのものの名前が歴史に登場するのは17世紀の初め頃となるが、この一帯が要地として認められる大きなきっかけとなったのは古代において難波津がおかれたことである。難波津は7～8世紀には遣隋使・遣唐使の海路の出立・帰港地点となった場所で、古代の国際交流の玄関口として外来文化へと結びついていた。古代の大阪には難波宮が置かれ、7世紀から8世紀にかけて二度首都となったが、外交使節のための施設といわれる「難波館」や「難波大郡」はすでに6世紀から設置されており、さらには7世紀の百済の滅亡後には多くの遺民が難波に来住するなど、難波は早い段階から豊かな国際性をみせたが、その窓口は当地の難波津だったのである。

平安時代になるとこの地には渡辺津が登場する。その場所は現在の天神橋から北浜方面にかけての地点である。渡辺津は京都と瀬戸内海を結ぶ航路の重要な中継地のひとつであったが、とりわけ京都方面から紀州の熊野詣へ赴く人びとが船を降り陸路を歩み始める熊野街道の起点となった点が特に重要である。熊野詣は室町時代には「蟻の熊野詣」といわれるほど多数の人が実際に熊野の地を目指したので、ここ渡辺津の賑わいも相当なものであったことは想像に難くない。

中世は宗教の時代であり、熊野信仰だけが盛んだったわけではない。大阪には古代以来の住吉神社（住吉大社）と四天王寺があった。前者は航海の神であり、和歌の神であった。後者は極楽浄土の東門に位置するという信仰が高まり、ともに京都の皇族や貴族たちが足しげく参詣に訪れた。彼らも淀川を船で下って渡辺で上陸し、その後二カ所をセットで巡るということもよくみられた。彼らにとって大阪は身近にあってかつ信仰心を満たしてくれる場所だったのである。彼らの移動の中継地点となったのも渡辺津であった。

渡辺津の景観はよくわかっていないが、大川南岸には摂津国衙のほか西成郡唯一の式内社坐摩神社や、重源による東大寺再建の勧進活動の拠点となった渡辺別所(浄土堂)といった有力な寺院が置かれた。こうした活動の拠点となったのはここが多くの船が出入りし、勧進による収益が得られるという見通しがあったからである。このように交通の要地であったことから、京都の朝廷はここに渡辺氏を置いて当地を支配させようとし、中世後期に

は守護勢力や有力な武家であった三好氏が渡辺氏を介して当地の支配をおこなうとしたのであった。

1583年、豊臣秀吉が大坂城と城下町を建設しはじめた。これによって、大坂城に近い着船場として、渡辺津より東に位置する八軒家浜の整備が進められるようになったと推測される。その名称の由来は、川に沿って八軒の旅籠が建っていたためといわれる。その当否は定かではないが、そうした言い伝えが残るほどこの地は交通のターミナルとして栄えたのであった。江戸時代、大阪と京都を結ぶ交通手段としてもっともよく利用されたのが三十石船であり、八軒家浜はその最大の発着場だったのである。その賑わいぶりは十辺舎一九の『東海道中膝栗下』にも記されている。

この八軒家浜のシンボルとして絵画にも描かれ、明治時代の古写真にもその姿がみえる石燈籠に注目してみたい。この石燈籠は1860年に地元京橋四丁目の町人によって建てられたもので、当時夜には明かりがなかったため船の乗り降りや荷物の積み下ろしが不便であるに加え、旅人のなかには近くの排水路にはまり落ちる人もいたため、地元の町人が出資しあって設置したものである。その中心人物はここで旅籠を経営していた堺屋源兵衛で、約90名が協力して実現している。町人力が結集してこうした事業がおこなわれたことは当地の人びとの連帯力を示すものでもある。

その後、近代に入って交通をめぐる環境に変化がみられていく。そして1927年からの寝屋川改修工事で大川の川幅が狭められ、八軒家浜は埋め立てられることになった。交通手段が水上交通から陸上交通へ移っていくという時代の変化のなかではやむを得ない状況であった。

しかし、八軒家浜周辺の地域が果たした歴史的役割は失われることなく、むしろ歴史を活かした町づくりと観光が結びついていくなかで、八軒家浜への注目度は高まってきている。平成20年の京阪電鉄中之島線の開業にあわせて八軒家浜の緑道や着船場の整備がおこなわれ、「川の駅はちけんや」も開設された。そして、平成22年には北浜東振興町会によって渡辺津を顕彰する記念碑の建立がおこなわれ、24年にはさきの石燈籠が地域の篤志家によって大阪府に寄付された。

こうした動きは、今、あらためて歴史をふりかえりながら八軒家浜の新しい役割に対し大きな注目が集まりつつあることを示していよう。かつて八軒家浜が交通のターミナルだった事実を想起することで、ここを起点とした回遊型・交流型の観光事業が推進される必要があると思われる。大阪の活性化のためにも八軒家の整備と活用がますます図られることを願う次第である。

提言1. 八軒家の歴史を語り継ぐ

■「歴史的な名所化」への取組み

水都大阪の起点ともいえる価値ある八軒家の真の歴史を、語り継ぐためには、川の駅はちけんやを拠点とした八軒家の観光名所化を推進し、歴史的価値の高さや水都大阪の発展に寄与してきた位置づけなどを継続的に国内外の来街者へ伝える必要があると考える。

<展開案>

・川の駅はちけんやでの八軒家歴史展の実施

⇒八軒家プロジェクトで交流を進める熊野三山協議会や大阪歴史博物館などとの連携を活かし、八軒家の歴史映像やパネル等を常設。

⇒大阪にある歴史的価値の高い魅力をパッケージとし、その中でも常設とすることで、来街者へ通年を通して八軒家の魅力を訴求する。

⇒大阪・旅めがねなど街歩きを推進する団体の街歩きコース設定に組み込んでいただく等により真の歴史伝承を進める。

提言2. 京都、大阪、和歌山をつなぐ歴史の結節点としての役割を担う

■都市連携による八軒家の歴史結節点の魅力発信の強化

熊野古道は世界に2つしかない「道の世界遺産」であることを活かし、熊野詣での出立地である京都市南宮から、和歌山の熊野三山まで、熊野参詣を軸とするエリアの歴史を活かした魅力発信・具体的な観光商品造成を進めることで、八軒家の価値向上を目指す必要がある。

近年人気の高い歴史散策を誘導するため、熊野古道沿道の都市が連携した魅力発信は重要。

○八軒家プロジェクトで議論した「八軒家活性化」に向けた取組み案

① 歴史的価値を高めるためのデザイン性と利便性の向上

- ・ 八軒家周辺～中之島公園一帯の案内表示板の形式やデザインを統一することで、エリア感を訴求しより誘導性を高める
- ・ 八軒家エリアでは欧米系のF I Tの増加が顕著であるため、大阪城や天神橋筋商店街など周辺への多言語化に対応した道案内機能を設置する（外国人にも分かりやすくピクトグラムで表示等）

② 八軒家ゆかりのイベントの開催

- ・ 熊野街道ウォーキングイベント
- ・ 船着き場サミット
- ・ 東海道中膝栗毛をテーマとするイベント
- ・ 一寸法師をテーマとするイベント
- ・ 坂本竜馬をテーマとするイベント

- ・遣隋使、遣唐使をテーマとするイベント
- ・地元産を中心としたテーマ性のある朝市を開催する

(天満市場に関連した生鮮食品、守口大根など地元産のもの、中之島に蔵屋敷があった事に関連して米や日本酒、観光客のお土産になるような天満切り子などの、工芸品、東大阪の工業製品 等々)

③ 八軒家への来街者の快適性を向上

- ・語らいの場の創出として椅子やテーブル等の滞留設備を配置
- ・バスの乗降場を配置することで、周囲の名所への散策性の向上を図る。

また水陸の交通拠点性を向上し、水都大阪の歴史拠点回遊を促進する。

八軒家プロジェクトの主な活動履歴

北浜東振興町会の活動

ボランティア協力

一般参加イベント

勉強会

会議

日付	種別	テーマ	講師 又は協力者	出席者又は 参加者数
2003年 10月15日	第1回天満八軒家浜ワークショップ	土佐堀研究会（大林組）と町会員との「八軒家の将来像について」意見交換会	土佐堀研究会	
2004年 1月28日	第2回天満八軒家浜ワークショップ	街の将来像, 今後の進め方	土佐堀研究会	
3月17日	第3回天満八軒家浜ワークショップ	土佐堀研究会の提案を基に八軒家浜デザイン2案を作成	土佐堀研究会	
4月28日	第4回天満八軒家浜ワークショップ	前回につくった2案をもとに意見交換 西大阪治水事務所初参加	土佐堀研究会 西大阪治水事務所	
7月7日	第5回天満八軒家浜ワークショップ	前回ワークショップの確認, 中期スケジュール 大阪府土木部河川室初参加	土佐堀研究会、大阪府土木部河川室、西大阪治水事務所	
8月4日	第一回事例研究会	淀屋橋 WEST	土佐堀研究会	
8月25日	大阪府説明会	大阪府案の説明	土佐堀研究会、大阪府土木部河川室、西大阪治水事務所	
9月17日	第6回天満八軒家浜ワークショップ	大阪府からの提案に対する議論	土佐堀研究会	
10月22日	第7回天満八軒家浜ワークショップ	具体的な空間のあり方 八軒家の特徴づけるデザインのイメージ、 空間利用のアイディアに関する議論	土佐堀研究会、大阪府土木部河川室、西大阪治水事務所	
11月19日	第8回天満八軒家浜ワークショップ	天神橋方向への接続, 川側建物との境界空間のあり方について	土佐堀研究会、大阪府土木部河川室、西大阪治水事務所	
12月17日	第9回天満八軒家浜ワークショップ	成果物(ワークショップ2004プラン)の素案, 記載内容等の検討	土佐堀研究会	
2005年 1月14日	第10回天満八軒家浜ワークショップ	成果物(ワークショップ2004プラン)の素案, 記載内容等の検討	土佐堀研究会	
1月28日	第11回天満八軒家浜	提案書の最終確認	土佐堀研究会	

	ワークショップ			
2月18日		ワークショップ2004プランを大阪府土木部長に説明	土佐堀研究会、大阪府土木河川室、西大阪治水事務所	
4月8日	第二回事例研究会	空堀界限における市民主体の街づくり	土佐堀研究会	
5月20日	大阪府説明会	大阪府案の説明	土佐堀研究会、大阪府土木河川室、西大阪治水事務所	
6月22日	第12回天満八軒家浜ワークショップ	大阪府案について ワークショップでの検討スケジュール	土佐堀研究会	
7月6日	第13回天満八軒家浜ワークショップ	大阪府案に対する意見交換会	土佐堀研究会	
7月27日	第14回天満八軒家浜ワークショップ	賑わい施設の方向性、天神橋との接続について	土佐堀研究会、大阪府土木河川室、西大阪治水事務所	
8月31日	第15回天満八軒家浜ワークショップ	天神橋との接続のあり方、建築際の通路のあり方についての意見交換	土佐堀研究会、大阪府土木河川室、西大阪治水事務所	
9月14日	第16回天満八軒家浜ワークショップ	「八軒家浜整備構想に関する町会意見」の取りまとめ骨子について	土佐堀研究会	
2005. 10. 1	八軒家プロジェクト発足	北浜東振興町会の委員会として八軒家プロジェクト発足		
10月5日	第17回天満八軒家浜ワークショップ	公園の管理運営に対する町会としての取り組み方針、天満橋方面との動線について	土佐堀研究会	
11月1日	第18回天満八軒家浜ワークショップ	「ワークショップ2005プラン」の記載内容の確認	土佐堀研究会	
11月22日	第19回天満八軒家浜ワークショップ	「ワークショップ2005プラン」の最終確認 ワークショップ2005プランを大阪府へ提出	土佐堀研究会、大阪府土木部河川室、西大阪治水事務所	
12	ボランティア協力	町内ビル壁面ライトアップ	共催：光のルネサンス 協賛：京阪電気鉄道(株)	
2006年 3月1日	大阪府説明会	大阪府案の説明	土佐堀研究会、大阪府土木河川室、西大阪治水事務所	
3月14日	第20回天満八軒家浜ワークショップ	大阪府案に対する意見の取りまとめ	土佐堀研究会	
3月29日	第21回天満八軒家浜ワークショップ	大阪府案に対する意見の取りまとめと今後の方策	土佐堀研究会	
4月11日	第22回天満八軒家浜ワークショップ	3/1の 大阪府案に対する要望書を大阪府へ提出 これまでの経緯と今後の見通しについて大阪府から説明、意見交換	土佐堀研究会、大阪府都市整備部河川室、西大阪治水事務所	

2006.7	一般参加イベント	リバーライトフェスティバル開催 於：ふれあいの岸边		
9月12日	第25回天満八軒家浜 ワークショップ	前回に引き続き大阪府と意見交換	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
11月7日	第26回天満八軒家浜 ワークショップ	大阪府案の説明	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
11月27日	町会検討会議	大阪府回答への対応		
12月13日	第27回天満八軒家浜 ワークショップ	大阪府案の模型を囲んでアイデア交換	土佐堀研究会	
12月15日	第28回天満八軒家浜 ワークショップ	前回検討案を大阪府に対して提案	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
2007年 2月14日	第29回天満八軒家浜 ワークショップ	大阪府と駐車場構造物の位置についての 確認	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
2月27日	第30回天満八軒家浜 ワークショップ	前回大阪府案に対する意見交換	土佐堀研究会	
3月14日	第31回天満八軒家浜 ワークショップ	駐車場構造物の位置に対する町会として の意見回答	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
4月3日	第32回天満八軒家浜 ワークショップ	天満橋駅側への階段またはスロープのあ り方、水辺建物に対する要望	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
4月17日	第33回天満八軒家浜 ワークショップ	公園と天神橋との接続に関する府の検討 結果、建物際歩道の天満橋駅側との接続、 水辺建物に関する町会からの要望	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
2008年 1月9日		「八軒家浜賑わい施設整備等事業提案の 募集について」大阪府へ要望提出	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
2月6日	大阪府説明会	八軒家浜将来計画について大阪府西大阪 治水事務所からの経過報告	土佐堀研究会、大阪府都市 整備部河川室、西大阪治水 事務所	
2008.2. 25	ボランティア協力	天満橋船着き場にイルミネーション 設置。大阪府へ寄贈	主催：八軒家プロジェクト	
3月29日：	八軒家浜開港式及び 川開き式典			

7月11日	第34回天満八軒家浜ワークショップ	現プランに対する思い、公園の使われ方についての希望他意見交換会	土佐堀研究会	
9月5日	第35回天満八軒家浜ワークショップ	公園の活動シーンや使われ方について	土佐堀研究会	
9月22日	第36回天満八軒家浜ワークショップ	公園の活動シーンや使われ方について取りまとめ	土佐堀研究会	
10月		アクティビティマップ作成 大阪府へ提出	土佐堀研究会	
12月12日	第38回天満八軒家浜ワークショップ		土佐堀研究会	
2009年 3月6日	第39回天満八軒家浜ワークショップ	ランドスケープデザイン(植栽等)について意見交換	土佐堀研究会	
3月24日	第40回天満八軒家浜ワークショップ	ランドスケープデザインについての意見交換	土佐堀研究会	
4月7日	第41回天満八軒家浜ワークショップ	八軒家現場見学(工事現場に入って現場の状況確認)、ランドスケープ案の提案ポイント(町会として大切にしたい点)、公園の管理運営への関わり方針(町会としてどんな貢献が出来るか)	土佐堀研究会	
4月28日	第42回八軒家浜ワークショップ	植栽計画について府との意見交換	土佐堀研究会	
5月15日	八軒家浜ワークショップ	植栽計画について府との意見交換	土佐堀研究会	
2010.3. 27	ボランティア協力	渡辺津記念碑設置。大阪府へ寄贈企画デザイン協力	主催：北浜東振興町会	
5.10	ボランティア協力	NHKBS「街道てくてく旅」放映		
7.10	会議	立ち上げ会議。八軒家再整備工事完了とともに 町会から独立 。		6名
7.25	ボランティア協力	天神祭障害者観覧招待のサポート		
9.1～ 10.3	一般参加イベント	「水都大阪今むかし」パネル展 於：川の駅はちけんや	協力：大阪歴史博物館	
9.22	勉強会	第1回「八軒家を学ぶ会」 八軒家(渡辺津)の歴史概要	講師： 歴博学芸員大澤研一氏	20名
10.8	ボランティア協力	新宮市からの見学者を案内(熊野三山協議会幹事山本殖生氏引率)		新宮市から 約30名
10.22	勉強会	第2回「八軒家を学ぶ会」 大阪歴史博物館「淀川展」見学	講師： 歴博学芸員大澤研一氏	18名

12.21	勉強会	津波・高波ステーション見学	協力：西大阪治水事務所	8名
2011.4	ボランティア協力	八軒家リーフレット製作	発行：北浜東振興町会	
6.17	勉強会	第3回「八軒家を学ぶ会」 なにわ歴博講座「豊臣期大阪城の武家屋敷・再論」	講師： 歴博学芸員豆谷浩之氏	14名
7.25	ボランティア協力	八軒家天神祭観覧客のサポート		
11.23	一般参加イベント	一日写真教室	講師： 写真家八二一氏	一般参加者 30名
2012.4.20	勉強会	第4回「八軒家を学ぶ会」 「大阪が本当の水の都だった頃」	講師：大阪天満宮文化研究所 研究所研究員高島幸次氏	21名
9.3	会議	活動報告と今後の進め方他		
7.13	勉強会	ワークショップ「水都大阪とは何か」 ブレインストーミング		20名
7.24	ボランティア協力	地元篤志家の寄贈による灯籠完成 2011.11. 9～企画デザイン協力		
10.27	勉強会	第5回「八軒家を学ぶ会」 生國魂神社見学	講師：生國魂神社権禰宜 中村文隆氏	8名
2013.3.16	一般参加イベント	ウォーキングイベント「水都の史跡を巡るリバーサイドウォーキング」	共催：一般社団法人日本姿勢と歩き方協会	
3.22	勉強会	第6回「八軒家を学ぶ会」 歴博「天下の城下町」見学	協力：大阪歴史博物館	
9.10	会議	八軒家と水辺の現状		17名
11.6	会議	河川活用における地域住民、市民団体、企業等の活動(事業)事例について		16名
2014.1.15	会議	地域による八軒家浜(公共空間)の使いこなしについて		13名
4.22	会議	八軒家で可能なイベント、新住民への周知		15名
6.24	会議	周辺の案内板の現状報告と問題点		9名
9.9	会議	熊野とのコラボイベント開催可能性の検討		11名
11.11	会議	「熊野詣が結ぶ」イベントの最終打ち合わせ		12名
11.23	一般参加イベント	世界遺産登録10周年記念コラボイベント「熊野詣が結ぶ」開催	協賛：熊野三山協議会 協力：城南宮、大阪府、	一般参加者 京都：36名

			京阪電気鉄道株式会社、 大阪水上バス株式会社	大阪：30名
2015.1.14	会議	熊野との今後の連携の可能性		13名
2.24	会議	提言書提出の検討		13名

■八軒家プロジェクト（八軒家を愛する有志の会）メンバー

代表	中嶋菫子	中の島美術学院理事長
メンバー	中嶋おとえ	中の島美術学院統括本部長
	上田耕二	大進電設工業(株)代表取締役、
	大森泰史	北浜カイロプラクティック研究所、
	岡智恵子	(株)カクタス会長、
	門重学	(株)大林組大阪本店建築事業部大阪都心再生室副部長、
	高井純	(株)インタープラン代表取締役、
	西口泰	(株)大阪わいずプランニング代表取締役

■活動交流及び連携

京阪電気鉄道株式会社
大阪水上バス株式会社
ルポンドシエル株式会社
大阪歴史博物館
大阪府都市整備部河川室
大阪府府民文化部都市魅力創造局
大阪府西大阪治水事務所

以上